

Hitachi Koki

日立エンジン発電機

E 23SA

取扱説明書

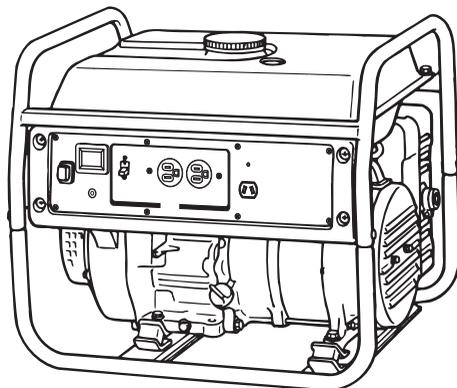
このたびは日立エンジン発電機をお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



排出ガス自主規制
適合証



HITACHI

目 次

ページ

エンジン発電機の安全上のご注意	2
各部の名称	6
仕様	7
標準付属品	8
別売部品	8
用途	9
作業前の準備	11
使い方	13
保守・点検	20
運搬	24
保管方法	25
ご修理のときは	裏表紙

警告、 注意、 注 の意味について

ご使用上の注意事項は「 警告」、「 注意」、「 注」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

 **警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 **注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

 **注** : 製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

エンジン発電機の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警 告

全般的なこと

- ① 使用現場の周囲の状況に考慮してください。
 - 発電機の運転を雨の中で行ったり、湿った、または、ぬれた場所で行わないでください。感電の恐れがあります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
 - 可燃性の液体やガス、または、かれ草など燃えやすいものの近くで発電機を運転しないでください。
爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。
- ② 子供や取扱説明書をよく読んでいない人、または取扱いに不慣れな人には発電機を使用させたり、貸さないでください。
 - 作業者以外、発電機に触れさせないでください。
 - 作業者以外、作業場に近づけないでください。
 - 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人が単独で使用しないでください。
事故やけがの原因になります。
- ③ 指定された用途以外に使用しないでください。
事故やけがの原因になります。
- ④ 火気に注意してください。
 - 使用燃料のガソリンは引火しやすいので、火気を近づけないでください。
 - 運転中は燃料タンクのキャップをはずさないでください。
 - 発電機に接続する電気器具は、発電機からはなれた場所で使用してください。
爆発や火災の原因になります。
- ⑤ 感電に注意してください。
 - 必ずアース（接地）してください。
 - ぬれた手で発電機を操作しないでください。
 - コンセントにピンや針金などの金属物を入れないでください。
 - 点火プラグ・プラグキャップ・高圧線まわりに触れないでください。
感電の恐れがあります。

警 告

⑥ 電力会社の配線に接続しないでください。

火災や感電事故の原因になります。

⑦ 排気ガスに注意してください。

- 建物、トンネル、マンホール、井戸、船倉、タンクなどの内部や換気の悪い所で発電機を運転しないでください。
排気ガスに含まれている有毒成分を吸引して、ガス中毒になったり、窒息の原因になります。
- 排気ガスがたまらない風通しの良い場所に、排気を向けてください。また、建物、その他の設備に排気を向けないでください。
排気ガスが停滞したり、建物、その他の設備の中に充満するとガス中毒や窒息の原因になります。

使 用 前

① 使用前に、各部を点検してください。

- 機体に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
- 部品の破損・取付け状態、ガソリンの漏れ、電気配線のいたみ、その他、運転に影響をおよぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 異常がある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

② 平らな場所に置いて運転してください。

移動して、けがや火災の原因になります。

③ ガソリンやオイルを補給するときは注意してください。

- エンジンを停止後、機体が冷えてから補給してください。
- 火気を近づけないでください。タバコを吸わないでください。
- ガソリンやオイルは規定量を超えて補給しないでください。
- ガソリンがこぼれたら、よくふき取ってください。
爆発や火災の原因になります。

④ 発電機の過熱に注意してください。

- 発電機は建物、その他の設備から1 m以上はなして運転してください。
- 発電機のまわりを囲ったり、カバーをかぶせたまま運転しないでください。
火災や事故の原因になります。

⑤ 始動する場合は注意してください。

- コンセントに電気器具が接続されていないことを確かめてから、始動してください。
不用意な始動は感電やけがの原因になります。



警 告

使 用 中

- ① 電子計算機類、電子制御式電動工具などの電子制御機器、マイコン付き機器、充電器、医療機器などの精密機器に使用しないでください。
誤作動して事故を起こす原因になります。
- ② 油断しないで十分注意して使用してください。
 - 取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に使用してください。
軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 常識を働かせてください。
非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
 - 疲れているときは、使用しないでください。
事故やけがの原因になります。
- ③ 無理して使用しないでください。
 - 安全に能率よく作業するために、発電機の能力に合った負荷で使用してください。
過負荷で使用すると過熱し、火災の原因になります。
- ④ 運転中は機体を移動したり、傾斜させないでください。
転倒して、けがや火災の原因になります。
- ⑤ 運転中や停止直後はマフラの周辺に触れないでください。
マフラの熱で、やけどをする恐れがあります。
- ⑥ 次の場合は、エンジンを止めてください。
 - 使用しない、または、修理・調整・点検する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
運転したままでは、思わぬ事故の原因になります。
- ⑦ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音・異常振動がしたときは、直ちにエンジンを止め、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
そのまま使用していると、けがや火災の原因になります。

 警 告

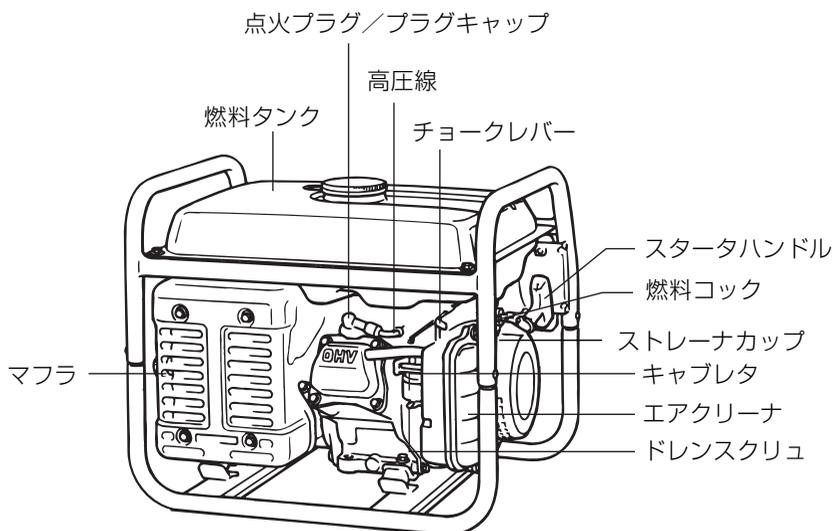
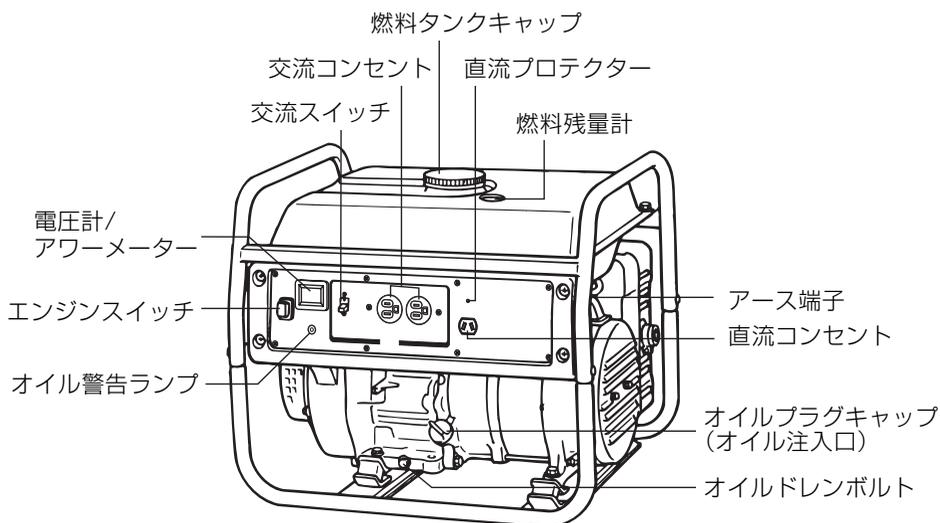
使 用 後

- ① 運転しない場合は、燃料コックを閉じてください。
キャブレタから燃料が漏れることがあり、火災の原因になります。
- ② 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - エンジンスイッチは「STOP」(停止)の位置にして保管してください。
 - ガソリン、オイルを抜き取り、乾燥した場所で子供の手の届かない所、または鍵のかかる所に保管してください。
事故の原因になります。
- ③ ガソリンやオイルは安全な容器に入れ、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。
事故の原因になります。
- ④ 修理は、専門店で依頼してください。
 - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

 注 意

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
ちらかった場所は、事故の原因になります。
- ② 都道府県などの条例で定める工場または事業所で使用する場合は、各条例で定める騒音規制値以下でご使用ください。
- ③ トラックなどで機体を運搬するときは、倒れ止めをしてしっかり固定し、静かに運搬してください。
運搬中に動いて、思わぬ事故の原因になります。

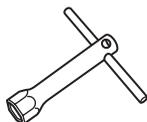
各部の名称



仕 様

項 目		形 名	E 23SA	
			50 Hz 用	60 Hz 用
発 電 部	交 流	定格出力周波数	50 Hz	60 Hz
		定 格 出 力	2.0 kVA	2.3 kVA
		定 格 電 圧	100V	100V
		定 格 電 流	20 A	23 A
	直 流	定 格 電 圧	12 V	12 V
		定 格 電 流	8.3 A	8.3 A
	発 電 機 方 式		2 極回転界磁形单相交流発電機	
	電 圧 調 整 方 式		コンデンサ補償式	
	励 磁 方 式		自己励磁式	
	力 率		1.0	
交流コンセント数		2		
交流過電流保護装置		ノンヒューズブレーカ (N.F.B)		
直流コンセント数		1		
直流過電流保護装置		プロテクタ		
エ ン ジ ン 部	エ ン ジ ン 種 類		強制空冷 4 サイクルガソリンエンジン	
	排 気 量		171 mL (171 cc)	
	使 用 燃 料		無鉛ガソリン	
	燃 料 タ ン ク 容 量		10 L	
	エ ン ジ ン オ イ ル		API 分類SE級エンジンオイル (SAE 10W-30)	
	エンジンオイル規定量		0.6 L	
	定格連続運転時間		約 8.8 時間	約 7.5 時間
	始 動 方 式		リコイル式	
	点 火 方 式		電子点火 (T.C.I)	
	点 火 プ ラ グ		NGK BPR4ES	
回 転 制 御 方 式		遠心重錘式		
騒音値 (7 m、4 方向平均)		65 dB (A)	68 dB (A)	
質 量		41 kg		
寸 法		全長 510 mm × 全幅 415 mm × 全高 425 mm		

標準付属品



点火プラグ用ソケット …………… 1個

別売部品

…………… (別売部品は生産を打ち切ることが
ありますので、ご了承ください。)



チャージコードアッセンブリ (コードNo. 682974)

用 途

交流電源

警 告

- 電子計算機類、電子制御式電動工具などの電子制御機器、マイコン付き機器、充電器、医療機器などの精密機器に使用しないでください。

使用電源が単相交流、電圧 100 V 仕様の次の電気器具に使用できます。

- 各種電動工具類の電源
- 各種汎用モーター使用機器の電源
- ラジオ、テレビ、ステレオなどの電源
- 各種照明器具および電熱器の電源

使用範囲

使用できる電気器具の消費電力 (W) の範囲は次の表の通りです。

形 名	電気器具	電球・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなどの場合	電動工具類の場合	汎用モーター使用機器、水銀灯・ハロゲン灯の場合
	E 23SA	50 Hz用	2000 Wまで	1600 W程度まで
	60 Hz用	2300 Wまで	1900 W程度まで	1300 W程度まで
備 考		力率=1.0	力率=0.8~0.95	力率=0.4~0.75

注 意

- 電気器具の合計負荷が発電機の取りだし可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因になります。

注

- 周波数 50 Hz、または 60 Hz 専用になっています。それぞれの周波数に適合した電気器具を使用してください。
- 電動工具の消費電力は機体に表示してあります。ご不明の場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 汎用モーター類（誘導電動機）には消費電力の表示がなく、出力を表示しているものがあります。このときはお買い求めの販売店に消費電力をお問い合わせください。目安として消費電力は出力の約 2 倍です。
- 電動工具類・汎用モーター類で起動電流が大きい場合、あるいは負荷のかけすぎの場合は消費電力が通常より大きくなり、交流スイッチが「OFF」(切) となります。その場合は上表より消費電力の小さいものを使用してください。

直流電源（12V バッテリー充電専用）



警 告

- 12Vバッテリー充電以外に使用しないでください。

40 AH、1/2（ハーフ）放電状態のバッテリーを充電できるようになっていますので、これよりも容量の小さいバッテリーの充電に使用できます。

使用範囲

12V – 8.3Aまで

- 注**
- バッテリーの補充電はバッテリーの放電状態により充電時間が異なります。バッテリーの比重が1.26～1.28になると充電完了となりますので、できるだけ1時間おきぐらいに比重をチェックしてください。例えば40HAの小型乗用車のバッテリーですと、1/2（ハーフ）放電状態から約5時間でほぼ良好な状態になります。
 - バッテリーの充電は必ずバッテリーの液量を確認してから行ってください。
 - 使用中に定格以上の電流が流れると直流プロテクターが作動します。その場合は接続されている負荷を発電機の使用範囲以内にしてください。

作業前の準備

⚠ 警告

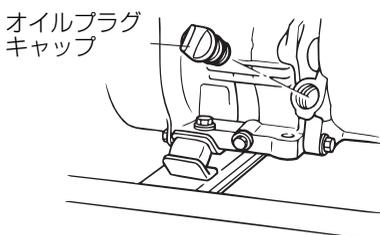
• エンジンを始動する前に、必ず次のことを確認または準備してください。

1. 作業環境の整備・確認

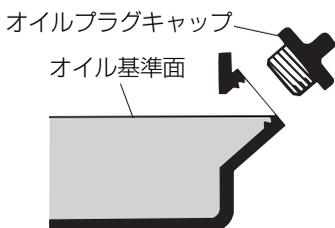
作業をする場所が注意事項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

発電機は水平を保てる場所に置いてください。

2. エンジンオイルの給油および確認



エンジンオイルは抜いて出荷しています。
オイルプラグキャップをはずし、下記の自動車用4サイクルオイルを注入口の口元まで規定量給油してください。



- 使用オイル
4サイクルオイル
API分類SE級エンジンオイル
SAE 10W-30 SE級
- エンジンオイル規定量
600 mL

エンジンオイルがこぼれたときはきれいにふき取ってください。

エンジンオイルを給油した後は、オイルプラグキャップをしっかりと締めてください。

3. オイル警告装置について



○ — オイル警告ランプ

この機体にはオイル警告装置が取付けられています。

この装置はエンジンオイルが少なくなると潤滑不足になる前に、オイル警告ランプを点灯させるとともに自動的にエンジンを停止させます。

オイル不足でエンジンが停止したときは、スタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。

また、始動時にエンジンオイル量が少なくなっているとスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプが点灯し、エンジンは始動しません。

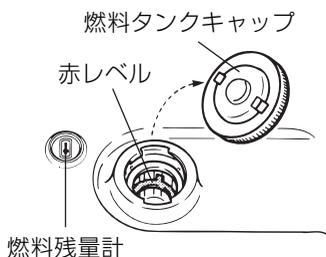
オイル警告ランプが点灯したときはエンジンオイルを注入口の口元まで補給してください。

- 注**
- この装置はエンジンオイルの量の警告はしますが、エンジンオイルの汚れに対しては作動しません。オイル交換は初回 20 時間めに行い、その後 100 時間ごとに実施してください。
 - エンジンが自動的に止まったら修理依頼をする前に、まずスタータハンドルを引いてオイル警告ランプの点灯を確認し、エンジンオイルを補給してください。

4. ガソリンの給油

⚠ 警告

- 火気を近づけないでください。タバコを吸わないでください。
- エンジンを停止後、機体が冷えてからガソリンを給油してください。
- 燃料タンクには外気との間に圧力差が生じています。燃料タンクキャップを少しゆるめて圧力差を取り除いてから開けてください。
- ガソリンは燃料タンク注入口の赤レベル以上に入れないでください。

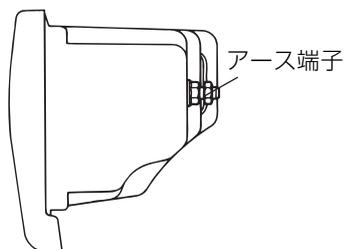


自動車用の無鉛ガソリンを燃料タンク注入口の赤レベルまで給油します。

ガソリンがこぼれないように注意し、こぼれたときは燃料タンク・機体まわりをきれいにふき取ってください。

ガソリンを給油した後は、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。

5. アース



機体のアース端子にアース線を接続し、先端を地中に埋められた接地極にアースしてください。

使 方

1. 始 動

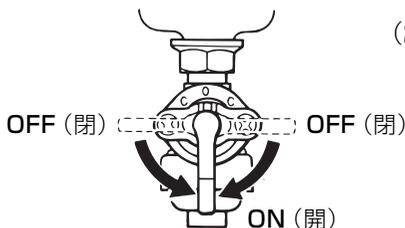
⚠ 警 告

- 機体に損傷がないか、正常に作動するか、所定機能を発揮するか確認してください。
- 部品の破損・取付け状態、ガソリンの漏れ、電気配線のいたみ、その他、運転に影響をおよぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 屋内や換気の悪い場所で始動したり、作業しないでください。
- コンセントに電気器具が接続されていないことを確認してください。

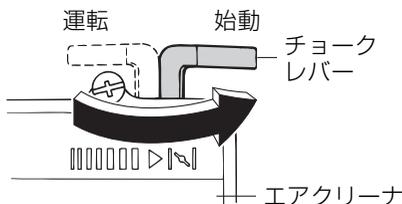
交流スイッチ



(1) 交流スイッチを「OFF」にします。

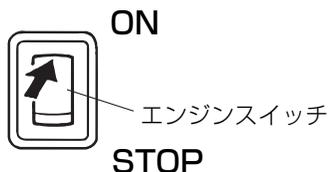


(2) 燃料コックのレバーを「ON」(開) にします。



(3) チョークレバーを始動 (ON) 側の位置にします。

注 • エンジンが暖まっているときは、チョークレバーを始動側にする必要はありません。



(4) エンジンスイッチを「ON」(入) にします。

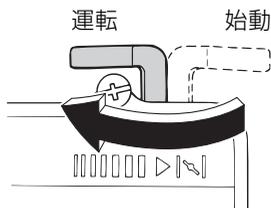
スタータハンドル



- (5) 機体が横転しないように手で押さえます。スタータハンドルを軽く引き出し、スタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引っぱります。

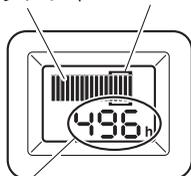
- 注**
- スタータハンドルはロープ引き出し口の方方向にならって、まっすぐ引いてください。
 - ロープはいっぱいに引き切らないでください。
 - スタータハンドルを引いた後、手をはなさず、静かに戻してください。

スタータハンドルを数回引いてもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを「運転」側に戻してスタータハンドルを引ってください。



- (6) エンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に「運転」側に戻し、しばらく暖気運転をします。

電圧表示セグメント 適正電圧



アワーメーター



- (7) 電圧計の電圧計セグメントが、適正電圧を示していることを確認します。

- 注**
- 電圧計は運転中に発生する交流の電圧を、セグメントの数で表示します。
 - 電圧計の下側はアワーメーターで、発電後の精算運転時間を表示します。

2. 運 転

交流電源の取出し方

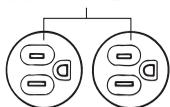
⚠ 警 告

- 電気器具を接続する前に、電気器具のスイッチが「切」になっていることを確認してください。
- 電子計算機類、電子制御式電動工具などの電子制御機器、マイコン付き機器、充電器、医療機器などの精密機器に使用しないでください。

電圧表示セグメント 適正電圧



交流コンセント



- (1) 電圧計の電圧計セグメントが、適正電圧を示していることを確認します。

- (2) 電気器具のさし込みプラグを交流コンセントにさし込みます。

2 口合計消費電流

E 23SA	50 Hz	20 A
	60 Hz	23 A

交流スイッチ



I ON

交流スイッチ

O OFF

- (3) 交流スイッチを「ON」(入)にします。

- (4) 電気器具の取扱説明書に従って、電気器具のスイッチを「ON」(入)にします。

 注 意

- 電気器具の合計負荷が発電機の取りだし可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。
発電機損傷の原因になります。

- 注**
- 電気器具の消費電力が使用範囲を超えたとき、または電気器具に異常がある場合は交流スイッチが「OFF」(切)となり通電しません。このときは電気器具のスイッチを「OFF」(切)にしてさし込みプラグを抜き、電気器具に異常がないか、消費電力が9ページの表の使用範囲を超えていないか点検してください。
点検後再運転するときは、交流スイッチを「ON」(入)にしてから電気器具のスイッチを「ON」(入)にしてください。
 - 電動工具類・汎用モーター類で起動電流が大きい場合、あるいは始めから負荷がかかっている場合、これらのモーターが始動しないことがあります。
2個以上のモーター類を使う場合、同時に始動させないで、起動電流の大きいものから順次起動させてください。
 - 電動工具類は負荷のかけかたで消費電力が通常の値より大きくなる場合がありますので注意してください。

直流電源の取出し方 (12V バッテリー充電専用)

 警 告

- 12Vバッテリー充電以外に使用しないでください。
- 充電するバッテリーの取扱説明書をよくお読みください。
- バッテリーは引火性ガスを発生しますので、取扱いを誤ると爆発やけがの原因になります。バッテリー充電の際には次のことを厳守してください。
ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。
充電は風通しの良い場所で行ってください。
バッテリー液 (希硫酸) の取扱いに注意してください。

 注 意

- バッテリーへの接続には別売部品のチャージコードアセンブリを使用してください。

(次ページへつづく)

⚠ 警告

- 直流（DC）と交流（AC）を同時に取出す場合、交流（AC）の電気器具の消費電力は次の範囲を守ってください。

E 23SA	50 Hz	1900 W まで
	60 Hz	2200 W まで

- 満充電になるための充電時間はバッテリーの種類、放電状態（バッテリー液の比重）によって異なります。



チャージコードアセンブリ

- (1) 別売部品のチャージコードアセンブリ（コードNo. 682974）を準備します。

電圧表示セグメント 適正電圧



- (2) 電圧計の電圧計セグメントが、適正電圧を示していることを確認します。



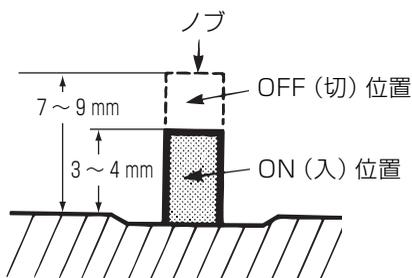
直流プロテクター



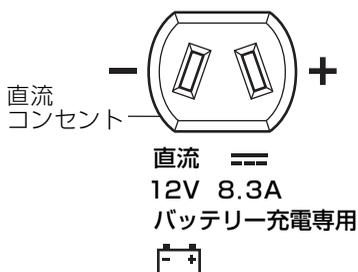
ON | 
OFF ○ 

直流プロテクター

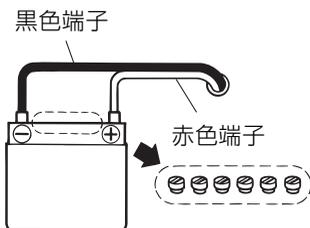
- (3) 直流プロテクターが「ON」(入) になっていることを確認します。
直流プロテクターが「OFF」(切) になっているときはノブを押し込んで「ON」(入) にします。



- 注**
- 直流プロテクターは通常「ON」(入) になっています。
 - 直流プロテクターが「ON」(入) のときはノブを押さないでください。



- (4) チャージコードアセンブリのさし込みプラグを直流コンセントにさし込みます。



- (5) チャージコードアセンブリの赤色端子
をバッテリーの⊕端子に接続します。
- (6) チャージコードアセンブリの黒色端子
をバッテリーの⊖端子に接続します。

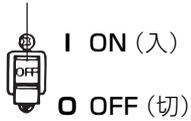
注 意

- バッテリー充電中にバッテリーから負荷を取ったり、バッテリー充電中に車のセルを回さないでください。
大電流が流れ、発電機ゼネレータ部分のコイル焼けの原因になります。
- チャージコードアセンブリの取りはずしは、エンジン停止後、取付けの逆順で行ってください。

- 注**
- 使用中に定格以上の電流が流れると直流プロテクターが「OFF」(切) となり、通電しません。このときは接続されている負荷を発電機の使用範囲以内にしてください。
再運転するときは、直流プロテクターのノブを押し込んで「ON」(入) にしてください。

3. 停止

交流スイッチ



- (1) 電気器具のスイッチを「OFF」(切) にします。
- (2) 電気器具のさし込みプラグをコンセントから抜きます。
- (3) 交流スイッチを「OFF」(切) にします。

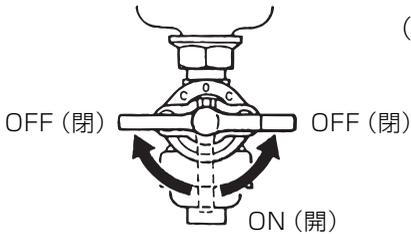
ON (運転)



エンジン
スイッチ

STOP (停止)

- (4) エンジンスイッチを「STOP」(停止) にします。



- (5) 燃料コックを「OFF」(閉) にします。

保守・点検



警告

- 点検・手入は、エンジンを止めて機体が冷えた状態で行ってください。
- 点検後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。

次の要領で常に機体の手入を心掛けてください。

1. 仕業点検

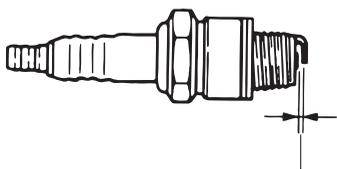
ご使用前に次の箇所を点検してください。

異常がある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

- ① ガソリンの漏れ、量
- ② エンジンオイルの汚れ、漏れ、量
- ③ ボルト、ナット類のゆるみ
- ④ コンセントの損傷、スイッチ類の作動具合
- ⑤ スタータの作動、スタータロープの損傷
- ⑥ エンジンの始動性、異常音・異常振動
- ⑦ オイル警告ランプの作動

2. 保守・点検方法

● 点火プラグの点検



電極のすき間 (0.6 ~ 0.7 mm)

- (1) 電極部がよごれている場合はワイヤブラシなどでよく掃除してください。
- (2) 電極のすき間が所定の寸法 (0.6 ~ 0.7 mm) でなかったり、電極部がひどく焼けて丸くなっていたり、ガイシ部にひびが入っているときは新品と交換してください。

注

- 点火プラグは必ずNGK BPR4ESを使用してください。

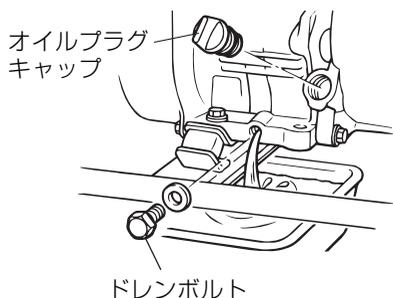
● エンジンオイルの交換

- 注**
- 初回は 20 時間め、その後は 100 時間ごとに交換してください。
 - 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。

- (1) 排出するエンジンオイルを受け取る容器を準備してください。
- (2) エンジンを 2～3 分暖気運転し、エンジンを停止します。

⚠ 警 告

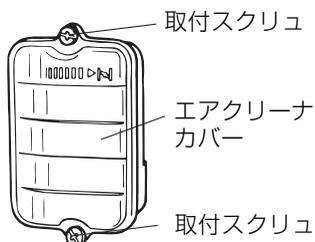
- エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっていますので、すぐには排出しないでください。



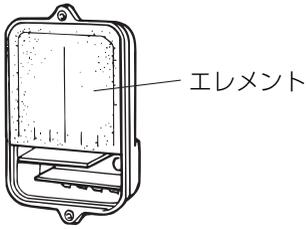
- (3) オイルプラグキャップとドレンボルトをはずします。
- (4) 発電機を傾けてエンジンオイルを完全に抜きます。
- (5) ドレンボルトを取付けます。
- (6) 自動車用 4 サイクルオイルを注入口の口元まで規定量給油します。
(11 ページ参照)
エンジンオイルがこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- (7) オイルプラグキャップをしっかりと締めてください。

● エアクリーナエレメントの掃除

ほこりの多い場所で使用した場合は早めに掃除してください。



- (1) 取付スクリュをゆるめてエアクリーナカバーをはずします。

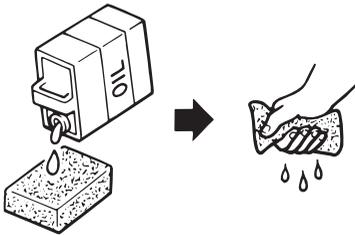


(2) エレメントを取り出し、きれいな混合油（白灯油2～4：エンジンオイル1）で洗淨します。

(3) エレメントをエンジンオイルなどにひたします。その後、点滴しない程度に余分なオイルを取り除きます。

注 ・エレメントは破れますので、きつく絞らないでください。

(4) エレメントをエアクリーナ本体にはめ込み、エアクリーナカバーを取付スクリューで取付けます。

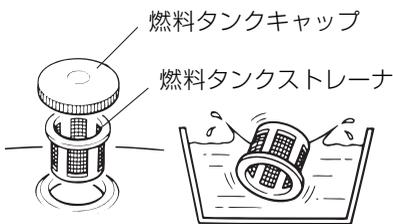


● 燃料タンクフィルタの掃除

(1) 燃料タンクキャップおよび燃料タンクストレーナをはずします。

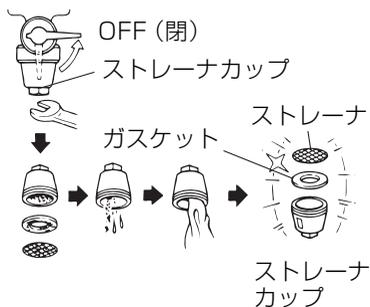
(2) 溶剤を使って燃料ストレーナを洗淨します。燃料ストレーナが破損しているときは交換してください。

(3) 燃料タンクストレーナをふいて燃料タンクの給油口に挿入し、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。



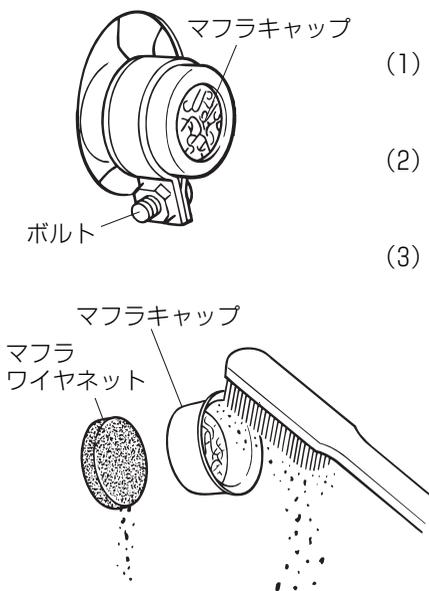
● 燃料コックの掃除

ストレーナカップにゴミがたまったときは掃除してください。



- (1) 燃料コックを「OFF」(閉)にし、ストレーナカップを取りはずします。
- (2) ガスケット、ストレーナをはずし、ストレーナカップ、ストレーナをガソリンで洗浄します。
- (3) ガスケットを点検します。破損しているときは新品と交換します。
- (4) ストレーナ、ガスケットおよびストレーナを取付けます。
- (5) 取付け後はガソリンが漏れないことを確認してください。

● マフラワイヤネットの掃除



- (1) ボルトをゆるめてマフラキャップとマフラワイヤネットをはずします。
- (2) ワイヤブラシなどでマフラキャップとマフラワイヤネットをよく掃除してください。
- (3) マフラキャップとマフラワイヤネットを取付け、ボルトで締付けます。

3. 定期点検

1年に1度以上は、お買い求めの販売店に定期点検を依頼してください。

運 搬



警 告

- 燃料タンクにガソリンを給油したまま運搬しないでください。
- 発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。



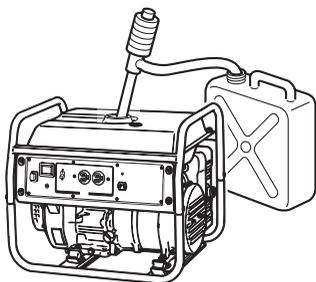
注 意

- 倒れ止めをしてしっかり固定し、静かに運搬してください。
- 発電機の上に物を置かないでください。

- (1) エンジンスイッチを「STOP」(停止) にします。
- (2) 燃料タンクキャップ、燃料タンクストレーナをはずし、市販の給油ポンプを利用して燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
燃料を抜き取った後は、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。
- (3) 燃料コックを「OFF」(閉) にします。
- (4) 発電機をロープなどで確実に固定します。

保管方法

長時間にわたって使用しないときは、次のように保管してください。



- (1) エンジンスイッチを「STOP」(停止)にします。
- (2) 燃料タンクキャップ、燃料タンクストレーナをはずし、市販の給油ポンプを利用して燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
ガソリンがこぼれないように注意し、こぼれたときはきれいにふき取ってください。
燃料を抜き取った後は、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。
- (3) 燃料コックを「ON」(開)にします。
- (4) エンジンを始動し、ガス欠で停止するまで運転します。
- (5) キャブレタのドレンスクリューをゆるめて、キャブレタ内のガソリンを抜きます。
ガソリンがこぼれないように注意し、こぼれたときはきれいにふき取ってください。

注 ・キャブレタ内にガソリンが長時間残っていると、変質してキャブレタ内部を腐食させて始動不良になります。

- (6) エンジンスイッチを「OFF」(停止)にし、燃料コックを「OFF」(閉)にします。
- (7) ドレンスクリューを締付けます。
- (8) 点火プラグをはずして、エンジンオイルをエンジン内に3～5 mL 給油し、スタータハンドルを静かに数回引いた後、点火プラグを締付けます。
- (9) スタータロープを引き、重くなった位置で止めます。
- (10) 全体をよく掃除し、油を湿らせた布でふき、ほこり、雨水のかからない乾燥した場所に保管してください。
- (11) 火気のない所に保管してください。
- (12) ガソリンは安全な容器に入れ、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。



この機体は、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用エンジン
排出ガス自主規制に適合しています。

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご使用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	●北陸支店
TEL (03) 5783-0626	TEL (076) 263-4311
●北海道支店	●関西支店
TEL (011) 896-1740	TEL (0798) 37-2665
●東北支店	●中国支店
TEL (022) 288-8676	TEL (082) 504-8282
●関東支店	●四国支店
TEL (03) 6738-0872	TEL (087) 863-6761
●中部支店	●九州支店
TEL (052) 533-0231	TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

右のQRコードをバーコードリーダー機能付きの携帯端末より読み取ることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。



日立工機株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>